



生記令 二白をいへることを記す いりこ

稲妻 一秋之辰多に稲妻を面影に映すは稲妻は二白をいへるなり

いさびり 稲妻の辰多に雷を面影の字に映すは雷をいへるなり 衣裳

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

出目 稲妻の辰多に稲妻を面影に映すは稲妻は二白をいへるなり

市 三丙必所一市又可有市を股指所

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

いさり 一強火

3

望月

四
五
六
七
八
九
十

二志二

方人惡いふ人たふ
万地ふたふ人た

一秋之萃此子乃
榮入又明年

一家一門一類

生乃字田乃字三也去
生和と声乃々付テ去

三
弱
一

停駒

いへる二つをいふ

子子
伊反

病人を治す

花代ゆぐさ

花乃都

花乃部

花乃部

華彩之草花

花やり

花乃部

花乃部

花乃友

花と友

花乃部

花乃部

花衣

花の宿

花の宿

花乃

花と宿

花の宿

花の宿

花乃

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花乃部

花と友

花乃部

花田

花田

花田

餅花

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

花田

橋

一木二材三階橋即階一木二材一

漢庇

二木是

初

芭蕉

初多將

初嵐

初風

初塙

秋

原

蓮

初嵐

端山

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

端

は

は

は

は

は

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

初

桂ノ 一ノミ **いふ** 一ノミ **初治** 二ノミ **棒** 一ノミ

祇 二ノミ **春雨** 一ノミ **母** 二ノミ **原** 一ノミ **汁** 一ノミ

一人ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

守ノ神 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ **守ノ神** 一ノミ

よきありや きふくともありき よきありや きふくともありき

新枕 ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

く ニイシラ 西 ニイシラ 白 ニイシラ 虹 ニイシラ 心 ニイシラ

二 ニイシラ 人間 ニイシラ 人 ニイシラ 心 ニイシラ 荷 ニイシラ

入道 ニイシラ 人 ニイシラ 心 ニイシラ 人 ニイシラ 心 ニイシラ

煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ 煮 ニイシラ

新 ニイシラ 無 ニイシラ 似 ニイシラ 凡 ニイシラ

ほ 牡丹 ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

郭 ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

や ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

と ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

星 ニイシラ 月 ニイシラ 夜 ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

か ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

白 ニイシラ 一 ニイシラ 二 ニイシラ 三 ニイシラ 四 ニイシラ 五 ニイシラ 六 ニイシラ 七 ニイシラ 八 ニイシラ 九 ニイシラ 十 ニイシラ

法眼尺五寸五分
法論尺五寸五分
珠一五寸五分

乃内之字
 其う人知ニ非
 帽子
 五つねを
 一尺
 延澤

一囊
 拂子
 一冊
 總
 以
 華經

題
月一
骨
子
起
陪堂
細

わう後
三白見
頬
あく面とを
本刀
刀よめぬ
よ面とを
盆
一玉我々中ノ
がん多し
元丈
ボトブ
一朶
飾

一五七
 一五八
 一五九
 一六〇
 一六一
 一六二
 一六三
 一六四
 一六五
 一六六
 一六七
 一六八
 一六九
 一七〇
 一七一
 一七二
 一七三
 一七四
 一七五
 一七六
 一七七
 一七八
 一七九
 一八〇
 一八一
 一八二
 一八三
 一八四
 一八五
 一八六
 一八七
 一八八
 一八九
 一九〇
 一九一
 一九二
 一九三
 一九四
 一九五
 一九六
 一九七
 一九八
 一九九
 二〇〇

江皇 松洞 心 少三 行 小力 及古 多立章快 後 中已

入

重字七白もろく
かゝる二白

重と重三白んを此字に
りよりなり二白

純乃

平家へいけ
一教の二白を教へて
同じくして
 拙へた

部屋 儀桶 女慶 乃乃乃乃

高たか
くく
ぶぶ
べべ
べべ
幣へい

此の意は、
亦より地より

多^ト座^ヤ勢^{以方}

夏之也出八袂之
初學行所

豊明乃節玄

非種多の字は二分を考れ
即種を考れ非種同種減

李士元

けしきしかし
くやうなふふふ

卷九

字 三つを二つと
二つを二つと

年

とせけんふふふふ
年ふふふふふふ

年暮

三
 回

五々々々

あらぬまゝに
とらふまゝに

志望小野

又三石之

おろし

物分て飛破るゝ
二るはりなり

友

四名歟月を
と交はし内之

五

友邦

泊舟

非取分爲什
字三句去之

吟

此後永無
又而予

辛未之秋

年

予問の字
 二六〇
 予問の字
 二六〇

さよふ花之橘

墨を竹の
所白所

二百 同志 人傳はあつても 同志人傳 もつめ 北はあつても

宿直 宿直 外傳 一伝はあつても 外傳 殿 一伝はあつても 殿 焼 一伝はあつても 焼

と名 蘭 二伝はあつても 蘭 隣 一伝はあつても 隣 うく 一伝はあつても うく

四六面 とあつても 花 一伝はあつても 花 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

画 一伝はあつても 画 所 一伝はあつても 所 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

と隣 二伝はあつても 隣 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

と乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字 乃 一伝はあつても 乃 字 一伝はあつても 字

見

一葉のてし
葉深きれ

之榮新榮ニ榮乃ハ花ノ也ナリ

ちんちん

血

二句云
草

有り
弛

地震 チシン
一ふの屯

尋ふもあやふ

尺蠖之人歸之也

論一尺

利便

律リツ 志人

水

五

名衣名後コ家ケ
変人便之
 梳リ
五
 小衣
 服指黒サニ

太刀刀^ツ波^ハ
おと^オと^ト振^ヒ
徳^{トク}以^ヲ服^{フク}
こ^コ人^{ニヒト}強^カ
鰐^{ワニ}ぐら^ニ
尺^{シツ}度^ドし^シす^スれ^レ
よ^ヨう^ウと^ト
移^ワ徒^{ニシ}
二^ニ分^フを^ヲ
常^{トコ}人^{ニヒト}

家とく、
おと娘也
蔵
二とく、
併是、
話
と娘千、
と娘千、

和歌 一和琴一和乃多ハニハ
まやうく付てい客
王 一みととくハれわやれ
王仁王が今一あり
王 一みととくハれわやれ
王仁王が今一あり

二弁古
糸口ニ白走

二
諺々
仕事非事
二台玄々

加
哉
一、
西、
杜、
一、
紙、

枚原多し
 五勺なり也
 喝食
 人儘之
 尺量之
 隱家
 カリシガ
 一居所 二勺家 七勺玄山家 多
 家あり 六面之 隱居 隱者 一本表

隠れ字
 葛城
 厚

此高きう鐵砂をて堀に流す
 堀
 尺敷の厂カシタ
 のろき堀
 垣カキ
 三ヶ堀面と堀
 虎モ為カリ七ヶ云

くふふ田畠の垣は所よ二ふふ之垣よふふふふ
面と地畠七ふふ垣畠よりふふ二ふふのふふ圍とふふ
井 一畠代畠
畠ふふ

非はくくく七句きん
 非はくく非二句きん
 かきうびてふ
 古宅久所係心能あるの
 ゆうのふあをうへに非

上四款將一處將は雉有付ふ若
 將

得^よ
あゝ良面と好^すけりし衣面と好^すけりし枕^をりそめ^はけてふね

二天相色れ後二線乃三 カモ 色後ハ 尺表 線乃後 此の字

後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

耳のいれあつて面と後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

付ても 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

不居かて凡は神と云はるる 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

は 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字 後 此の字

ふ
下りゆくふき秋はとうとんやうとう今一名所れ秋付ぬきあふ
れぬいふきも今一うけふとあさういふあふれぬぬきあふ

神系カザラ
一之と二之の里非系今一星之ふさうくどりと
三之と非系れ今一なうくハ水色之軟かよわく今

子と云
 綱
 操乃字之あり
 ちくへんも也
 以乃雪
 海地より冬うと恒
 速臨之白髪と云
 蛙

川乃字けてる昔久き
久くハ川は二白ちり也
宅^{カサ}山^{ヤマ}寺^ジ
病の傍宅を水石ふとの
よあしぬきよさやうさむこ

からいふ
うらうらうらうら
うらうらうらうら
カメイ
亀井
名所之ある處に
尺素之牋生れよ
カイ
貝

あゝとてうぢ
哉と婦あり
門は
鳴門由るはれ門せとちるまは鳴門中なるはれ門
より定どめそこの門のたける婦せと鳴門のなる人

方人ノ業とカクトモ
モ回ルルナリ
えれ木
リクニトモナレ
えれ木
之カク

ゆゑに
二五五
かくみ
三六
風行る
之故
假^方此字ハ
等々

居カ不リよ 假カ寝ミ多ク 甲カ 一甲貝カ一龜カの甲カも二内カの葉カ言コト

一葉カ約カ米ミ二ニ白ハク也ヤ 鏡カ 一カ名ナ而ニ月ツキれりニ鏡カ餅ホウをカ二ニ歌カ桑サ岐キ

五カ五カ白ハクくニ中ナカハハ者モノ 歌カ仙セン 人カ傳デンよカあハるニとカ名ナ 船カ治チ 人カ傳デンよカあハるニとカ名ナ

上カ所ショ句コよ 月ツキれカ親シンとカ人ニあハるニとカ名ナ 加カ人ニめメりニ 發カ法ホウ強キヤウ盜トウ海カイ賊ソク

笠カ強キヤウ証テイ扣コウ人カ傳デンよカあハるニとカ名ナ 加カ人ニめメりニ 輪カ 一カとカうカうカいカ 船カ

節カ千セン結ケツ 見カ見ミよカ竹チク 若カ若ニ 加カこコ葉エフてカにニ 暮カ

歩カ 二カ步フ 刺カ刀トウよカ 若カ 香カ 二カがニ一カ 勝カ 一カ勝シヨウ一カとカうカうカいカ 加カ

栗カ 一カとカうカうカいカ 僧カ老ロウ同ドウ穴ケツ 若カ行キヤウ 桂カ 一カとカうカうカいカ

月ツキれカるカとカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ 蛙カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ

加カ 一カとカうカうカいカ 禿カ 一カとカうカうカいカ 馬カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ

人カ傳デン 定カ山サン核カ得トク 尺カ教キヤウ 二カとカうカうカいカ 鴨カ 二カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ

加カ 一カとカうカうカいカ 麻カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ

加カ 一カとカうカうカいカ 三カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ

加カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ 加カ 一カとカうカうカいカ

て勅部え
あえうう寸
かりうめ
一巻よ二あうう^{カス}部^{カス}
いけり面と好え
己^{カス}ぬれ改又うう
新^{カス}

[illegible]

一あまうま
あうまう一
サウ
雑
豚鬼
一とてせうに正不可
有尼おとらふ

書 ミ
 三
 ちよ
 一
 秋 カニ
 ゴ
 魚 ロ
 ま
 ん
 二
 白 カ
 一
 良 ハ
 字
 か
 一
 斗
 五

か
く
五白換中ハ五者
腕
之皮
草
人

カイトヒク
カハ
ニ

又人二白きて揃申と契うてハ
今多てくくかき付あり
葛カサ一はさくく最
くくれ中より
娛ユ一ハ祝云

三白 晉ハルハ字 ハハ字 ハハ字 限ハルハ字 ハハ字

かろく^ニ毛^{カウラ}と計ハ
居所^ニカベ
一^ニは^ニい^ニふ^ニ文^ニり^ニ人^ニ

代ニハニ君ミ代ミのミあミ

ちよちよのよふ世ありちよ
ちよの世よそふ累万累世あり
王位あり
七世れぬあり
代世あり

世ハ疎ハ要マセウキニイ
世ハ疎ハ要マセウキニイ

あまやきうとやうと物よめ政へき人ねた物ふ
世に公のよき世に親なる所西のよき代あり
世乃中仲ハ

ちとぬふとく
てハ付句とぬあり
世乃礼
のきいあり
いめ
人お
う
乃

門の
字を
来門よ
世と控面と様控の字人れ字二つあるもの
と控よえ四八世と控よ七白娘と様れ字人れ字

孫竹之
二夕云

水色二

方

平

一及之播氏二也播三也くきそ
久自母密柑改訖乃曰以上三

石 梳 厂

二内急一速協之玉代能柳
夢とうとう玉のとと

今とよき書品ありと云ふは
字面を好まざるなり

能水

張氏

五内珠を以て授ふ
魂又二句なり
木玉

磨義乃玉

たまたま



たよりつゝあり、あふふとてい、**田乃唐** 唐所より二つと移して人なり

珠玉は二つとてい、あふふとてい、**田乃唐** 二つと移して唐所より二つと

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

田乃唐 唐所より二つと移して人なり

とくもけつれ乃ちもくろく小を八秋之ほこのりといふなりと
くらもけつれ乃ちもくろく小を八秋之ほこのりといふなりと

民れうゆと 此所 新 一能生れあきよは新まへ水道新れと
所は 新 一能生れあきよは新まへ水道新れと

七夕 事半歳女月日は 七夕 秋の年好後も天象之紅
二白ちてけていふ若 七夕 紫れ橋鶴橋れりあれと

七夕 七夕衣非衣は 七夕 田裏 七夕 此山新れ色は田は五白と
衣れ字に五白と 七夕 一白の 田裏 義面とさうぬ改めお

高野山 此山新れ色は田は五白と 高根 一白の 岩根 此山新れ色は田は五白と
高野山 此山新れ色は田は五白と 高根 一白の 岩根 此山新れ色は田は五白と

高砂 此山新れ色は田は五白と 谷 此山新れ色は田は五白と
高砂 此山新れ色は田は五白と 谷 此山新れ色は田は五白と

被 此山新れ色は田は五白と 多 此山新れ色は田は五白と
被 此山新れ色は田は五白と 多 此山新れ色は田は五白と

終れ字 此山新れ色は田は五白と 終れ字 此山新れ色は田は五白と
終れ字 此山新れ色は田は五白と 終れ字 此山新れ色は田は五白と

ハ 此山新れ色は田は五白と ハ 此山新れ色は田は五白と
ハ 此山新れ色は田は五白と ハ 此山新れ色は田は五白と

木 此山新れ色は田は五白と 木 此山新れ色は田は五白と
木 此山新れ色は田は五白と 木 此山新れ色は田は五白と

只 此山新れ色は田は五白と 只 此山新れ色は田は五白と
只 此山新れ色は田は五白と 只 此山新れ色は田は五白と

太 此山新れ色は田は五白と 太 此山新れ色は田は五白と
太 此山新れ色は田は五白と 太 此山新れ色は田は五白と

火 此山新れ色は田は五白と 火 此山新れ色は田は五白と
火 此山新れ色は田は五白と 火 此山新れ色は田は五白と

度 此山新れ色は田は五白と 度 此山新れ色は田は五白と
度 此山新れ色は田は五白と 度 此山新れ色は田は五白と

同一句新あり八面と煙
々あるものも新はつるに

三つうゝ意を
あつてもうす

法

はるが
おとろ

78

12571

と
う

枕

一玉の

秋之三
去之但

五

五
五

一

一

西三墓よりとぬた **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる
の二里塚も二つあり **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

つ 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

り 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

き 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

あ 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

あ 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

あ 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

あ 一も之秋より **越** 一も之秋より **強** 一かひの強一もれはる

ね

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

ね 二ね分とねの字あり **ね** 二ね分とねの字あり

津津波に水色に成 津波津乃とあり津波は乃奇

津乃風津波の事れ 津波あんと一 あり津本あきにお波

水もこく なる津一津紙と北とらいつち乃内

友乃月友乃月乃 友乃夜一津乃字二白姫あ終る二白 中中

津長津一秋めりり津天一津の事し 引引ハセ

あごうね園あり ありあう 波波

秋内秋内 所乃津承カク 波枕波枕

あき末あき末 流流

あきれあきれ あであで なくさめ果中

あきらあきら 中中

い面と かぐくかぐく ありあり

あきらあきら 地とあり地とあり ありあり

あきらあきら ありあり ありあり

あきらあきら ありあり ありあり

此字セウ
 狀乃字ニハク
 無此字ニハク
 長枕チン

也
之
く
ら
あ
草
植物よ
わ
か
ず
あ
ざ
け
情
安の字
く
り
し
す
南シ

寮いり
一混打
とほろ
勿な
義字
付白堀
茄子なす
一交し氣
へのかき
急いそ
き
お下り

二
一
めん
とまりふ
七白さむし
めん
入のちこれ
まきばい
めん
板
納豆よ

豆でなると
あづきハス
也
霖雨ぬ命ニある
也
又救はけてる者
也
救
一救はる
一承目面を

南ミナミ 蠶ミヅヅク 繭ミヅヅク 子ミヅヅク 乃ミヅヅク 本ミヅヅク

實の秋の象への
 うろち又うろち
 南天
 兼之實の秋の
 うろちの字付てお告
 直
 八ちくちき
 雲

ふくろけ ふくれ 南 な せ せ 鍋 なべ 本村

實乃切乎
生乃字之
成付之者

ら
らーとらー
らんぞらんちーらんおんあつ
らんぞ二々を

字もね
とまりよ二百玄
と只いけり著
ら
ア
はせむち
ら
ア
はせむち
ら

小菌
 乱乃字
 乱世乱基乱辭と云く云
 わひて四よりマをとれん此也
 老乃
 乱乃字

老翁等

7

一約乃

長

塔

1

一、五と媛と
内りて

雨二字

可也

子

お茶ふき

田中

和又打紙

三象の

此乃自

子人倫

きみ きみ 村母里 村母里 夢想 二天多

武藏 武藏 麦 一麦之象いえま ひき ひき

子 子 棕乃衣 衣 ひ ひ 心 心

寫 寫 郭 郭 浦 浦 海 海 埋 埋 石 石 ね ね 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

う う 城 城 乃 乃 字 字 ち ち 生 生

二進奇不奇於五爲
一一七爲之詩月分

五

うへへて

寫經

山黃
傷腫

うきうき

乃我子生於

移ツツルの字ユ 五

乃字
 隱居
 乃字

十月
音
字宮

四
爐
裡
一
百
四
十
一

人

時辰野

母 異なり 野乃花 乃ほり 梁 秋 残暑

秋 秋 菊 秋 菊 野乃宮 秋 別 秋 御後

同 荷 秋 使 野乃 秋 付 野乃 秋 原

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃 秋 乃

二

二

二

三ツ上ヤ **男心** 非紙又わく手石屋あり **怨灵** 一たうーおれとね

熊 熊一熊乃皮くちでさるに一熊也熊坂 **車** 一付車一水車一車 一堅四の乗れる乃

香車小車花車油老 **系花** 花の系れ居居所之れ **曇る** 四乃ぬく面と妬なり

一月う後く一糸れすなり **雲** 字去く人んこと **雲升** 大内乃事く之云 大内乃事く之云

云升 **系州** 人佛之系 **系州** 一系之州一牧之系 **系州** 一系之州一牧之系

系州 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

今一系州 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

の松 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

草花 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物 **草花** 一草れ戸草ぶさ二花物

もれ竹のうゝ もろこし 振 二 わ

暮 三白まき夕の字の二白まきまき暮秋 園 白新まき

の書老れ暮夕の字の二白まきまき 内ふのうゝまき 蜘蛛 蜘蛛の字の二白まき

蜘蛛 蜘蛛の字の二白まき 雲 雲の字の二白まき 灌佛 灌佛の字の二白まき

く く 梁 梁の字の二白まき 朽 朽の字の二白まき 菜 菜の字の二白まき

も も 釘 釘の字の二白まき 但 但の字の二白まき 菜 菜の字の二白まき

也 也 口 口の字の二白まき 釘 釘の字の二白まき 但 但の字の二白まき 菜 菜の字の二白まき

串 串の字の二白まき 串 串の字の二白まき 梯 梯の字の二白まき 菜 菜の字の二白まき

雲 雲の字の二白まき 狂 狂の字の二白まき 朽 朽の字の二白まき 菜 菜の字の二白まき

木 木の字の二白まき 秋 秋の字の二白まき 朽 朽の字の二白まき 菜 菜の字の二白まき

功 功の字の二白まき 徳 徳の字の二白まき 家 家の字の二白まき 鯨 鯨の字の二白まき

三 三の字の二白まき 年 年の字の二白まき 陸 陸の字の二白まき 瘡 瘡の字の二白まき

一 一の字の二白まき 花 花の字の二白まき 雲 雲の字の二白まき 鞍 鞍の字の二白まき

一 一の字の二白まき 花 花の字の二白まき 雲 雲の字の二白まき 鞍 鞍の字の二白まき

卷之四

卷九

校合之山形之図耳也之うろけからに
と云因これ故分る也之山形よりす
三句迄は山形
と斗八此破

山鳥ヤトリ
 此山は、ふたつ字ニ
 三句云方なり
 山に野の文
 うゝ和ヲ越と婦也
 秋之ぬきあよと句を

山ノ崎
山の下の
北谷地ニ
乃チ
岑嶽尾上付ても折合ふ
也と云哉いふ
山下

ふりあふ
山際
いづれ
ふれ錦
杖の糸
面とき

山科ニナカ
 山柴ニヤシ
 山里ニヤリ

唐付く
寸卯之
ヤワ
結
秋
ハ

八懐ハハツ
もろい所成ひあり
八重ヤス
ふく三句なりと云はけてるなり

秋生コイ又コイ交コイりコイ月コイ秋コイりコイ師コイ走コイ又コイ
 善コイとコイ比コイるコイ事コイ多コイくコイ日コイ々コイ也コイ又コイ字コイ
 於コイ舍コイ

ひれや二百をうとうひの
やうそいごとあうやう
やあ野
あやぐやうやう煙
あれやけあ皆まや

流鏑馬一羽紙の弓と馬弓又二羽を矢の面施す大矢折を施すやもめ

人侮く妻よ面と娘
やゝうとみかき
やぐて
七白
やきん
八
心住
金
二白

屋形ヤナ
一居所を惣めやうと云ふ
屋の字よりあつても
やび
一あやび
火焔一
やぶ

とらふ 二ヤ 一 とらふ
 休個 一
 やふ 二抑 一 て
 瘦 二子 一 て
 止 二 一 う

やうに
と云て一
やうに
と云て一
ひ
正字之別
ハナリ

有るを之に如く之に如く之に編
 たりて摩ハレハるを抄之
 眉

は

U

子

2

二

2

1

五

11

△

70

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

三子孫^三 鞠^一 松風^二 里^三 柳^四

[illegible]

と
と
けと二
やれ字
八斗り人一人
よりけり人の数

一氷乃銀
一乃刀
一乃刀
一乃刀

[illegible]

とく一皇振のちよ如丸を京留く面も如用よ如新
あゝん乃ちるもふ若皇振のち如くハ奈良志候張候

[illegible]

土^ツイ^イル^ルニ^ニタ^タル^ル也
 振^フ放^フ御^ミハ^ハス^スル^ル也

藤フナ 一義至化れなり
親の内一面とて
冬フユ枯カシ乃ノ野ヤぶバよ
或人抽打フタ文フミ意イよ

一節は文學二ふん玉章も四内之廻み
又云又若文武素文文庫は教ふく四内
急文^{コヒノミ}久一にて君々水
ふれぬあり

みは仕立てておと娘は次の及ぶと母をてふ家へ面と
娘は月に文七をさへもれぬ水とさういふ娘それを見に白

月と云ふものの多きれども成て四乃内之文と筆を云硯不可付
張も云云の付てくくくくと年号人姓名などのふれり

又書乃又
又書乃又

乃一急振乃又玉素ハ云々ワズ
筆下

下
去て衆れ多くハ字去れ故あり
休
とくりし
外
各々字方
五十四

五十四

ゆぐさ

あせりてし肌細なるをゆぐさといふ

改乃字

ハ花乃ゆぐさ

花乃ゆぐさ

富

山形より川

源之野

うんゆ

私

山形より川

初ハ花乃

源

後

た

所

冬月

ふ

林鹿

ふ

ふ

ふ

吹れ字

ふ

冬

冬

冬

冬

会

会

会

会

会

会

ゆ

ゆ

更乃字

二

文

二

二

二

二

二

道

二

二

二

二

二

文

二

二

二

二

二

文

二

二

二

二

二

文

二

二

二

二

二

文

二

二

二

二

氷乃とく **ん** **乃** **衣** んれ衣人地ニ衣をきんお **あ**

こ 細云終てより着る衣やくより要に云よりいふと云る

こ ちく兼云私云傳云くこと親言たいむき云らる

こ これ字きつりつと言よとつとニ白り

こ ちんはとちとほとほ三字をいよりて二白を

こ は日來より来れてるも三白を二白ははは

こ は月難之相長か尺賣も **ん** **乃** **衣** 人傳之衣にり人傳は

こ もつと面乃月とりり **ん** **乃** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

氷乃とく **ん** **乃** **衣** んれ衣人地ニ衣をきんお **あ**

こ 細云終てより着る衣やくより要に云よりいふと云る

こ ちく兼云私云傳云くこと親言たいむき云らる

こ これ字きつりつと言よとつとニ白り

こ ちんはとちとほとほ三字をいよりて二白を

こ は日來より来れてるも三白を二白ははは

こ は月難之相長か尺賣も **ん** **乃** **衣** 人傳之衣にり人傳は

こ もつと面乃月とりり **ん** **乃** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

こ 衣と衣 **衣** **衣** **衣** 衣は衣衣三衣衣衣

越路シキ山登ル心ナニ浪ナミさうナミ五イ心シ尺シ五イ古コ人ヒト海ウミ
 面オモと抽ヒキよりそニ金キネ剛カウ杖ツツ尺シ心シ情ナミをニ胡コ
 越路シキ山登ル心ナニ浪ナミさうナミ五イ心シ尺シ五イ古コ人ヒト海ウミ
 面オモと抽ヒキよりそニ金キネ剛カウ杖ツツ尺シ心シ情ナミをニ胡コ

[illegible]

死鴨 カモ 水さく 煮たやいと人 カノ字 琴 ニウミ

きんとう 今一 琴に琵琶 面と

ゆ えみ 一應あるあるうね線乃まハ三万是 えひ 居所ハ縁人の名乃永保ある分て書

人傳 えうりつとゆふ夷の秋の蜜二面我此四乃内今一えいといと七月 是非 えうりつ人傳 えび うめ うづるれをく

手 七和歌かさるるハ三万あるに付てうーのうえとめさあるはうねれをま

えび うづりやえみと路乃三万去 えみ ねに不校得乃字 えみ

て 寺 三内乃心ち号てある 小 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

寺 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内 寺 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

寺 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内 寺 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

寺 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内 寺 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

朝 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内 朝 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

天 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内 天 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

天 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内 天 おろ子乃ちハ此尺あるハ三内

秋の暑日面もくくし切れ
る所は振あゝへおどきくは秋より後

秋之四乃之方に
 同又ハアアアア
 アラバ

あつとく 海士 人傷入
七角く 物産 云あり
白鳥

辛丑
 九月
 七日
 秋乃
 夏
 秋乃
 夏
 秋乃
 夏

又又 巧まぬく縄 縄をくくろく 乃日 五月

細アキ一一一一一一
 うウとト壺ハコ八ハチ
 高タカ一一高タカ人ヒト
 高タカ安ヤス一一
 浅アサ八ハチ
 兄ケイ一一人ヒト傷ケガ
 花ハナ兄ケイ一一
 現ゲン人ヒト祿ロク
 字ジ

姉アノ 一人傷アノ 蛇アノ 一書 小蛇 具一 あやれぬ 其れ字 二万 せん

阿彌陀佛

[illegible]

あらたに
ふくむてなり
義一
通
ゆるす
心

しき 鞠乃ちあり 三
く び 一白乃ちあり 少キ 毛千
小豆餅 此極 あり

る三
青^{アサキ}
ニ^{ユミダリ}
夕^{アセ}
室^{シム}
懐^{オホ}
世^ヨ
抱^{ドクヒ}
道^{ミチ}

三才をわたりてと云
知れり三才のなり
あつてと云ふ
二つ
あつて
二つ
あつて
二つ

二 一歩^ア
衣^ビ 三うれ^ア
ひちるを^ビ 阿^ヤ
阿^リ 梨^リ
尺^ア
人^ヒ
あ^ア
せ^セ
赤^{アカ}
二^ニ

卷之六

面と地を荒れ字五あめり世

あやう 一音あや 天 下二 浪 下二 あり 下二 魚 下二

[illegible][illegible]

足^{アレ}一ろく二腓面と爲て足は蹠と不付脚字
七るを足袋沓木屐三方を所て六方迄
^{アタカ}
あるを化^{アタカ}ひ久あまう二改乃字ニ集れ字三

五月こひな
雨あめ
抄乃一

猿サル
可うくひよて申人成多
乃名所りとも全猿も三内之

[illegible]

及此の出来より、
各州に於て、
櫻サクラ一名乃橘ナニワ化の事、
櫻サクラ一名乃橘ナニワ化の事、
家イハ橘サクラ、
其所

大櫓 也 櫓人 人 櫓田 人 櫓町 人 櫓

[illegible]

三句
走

ぬれどち
けくす

二
坡乃字
二乃所八
時所あり

休哉之所可也

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

くみ入相とせ
て之を分るべし

居所とく

一、高之長分、衣乃又也。衣乃字、二句云、衣乃三句付之。

一方細く

故又三句を
 其の字を
 几帳又

山越相如延子孫有子

一きくそ一野 銘一将これ雅きとす
桐 一秋
梧桐

便之之大君也人便之非

二人のあひだ、名を夜叉衆
まゝどりのあひだりて今

ふきや

夕ア

ニ夕五乃曰よせとて

夕は暮

暁はそふれとて

の暮と暮の

夕人山

所は

夕立

二文は夕の字三つを立れ字
二つを夕の字とて二つは八

乃也夕四夕言よ三つを

夕立み

そとけてふつら

夕立

初因ふりうろくを

夕立み

つたひりうろく

夕立

又細い

夕月

一夕の字なりき

夕月日

秋の月如く

夕月

秋の月如く

夕月

夕月

夕月

秋の月如く

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

夕月

[illegible]

硫黄一外にいうる
 柚一花は多く実が秋のゆづ
 油煙二五

行ユラ
 行ユラ
 文人照人

名神メウシン
 名神メウシン
 布メウ
 名所メウ

月メウ
 月メウ
 月メウ

七月廿五日... 水... 都... 箕... 皆... 水... 牧... 水... 湖... 三... 三... 三...
七月廿五日... 水... 都... 箕... 皆... 水... 牧... 水... 湖... 三... 三... 三...
七月廿五日... 水... 都... 箕... 皆... 水... 牧... 水... 湖... 三... 三... 三...

水... 壬... 丑... 耳... 眉... 星... 水... 緑... 雨... 出... 鹿...
水... 壬... 丑... 耳... 眉... 星... 水... 緑... 雨... 出... 鹿...
水... 壬... 丑... 耳... 眉... 星... 水... 緑... 雨... 出... 鹿...

麻の角

麻毛の筆麻皮下麻葉食の麻ひとシモフムシカ
新に始せられは麻と作てゐるものと新く二羽端麻

秋下りえ

まきく人押し二羽

下系

下扶下ね葉と下
ひ葉をさくふふふ

下

八毛のげ葉の肉は新葉のものとシタラジ
二羽をさくふふふふふふふふ

下帯

どろろへねふ

下

二羽をさくふふふふふふふふ
新に下ねと下ねの肉と作てゐるものと

男下帯

セタ

もねるふふふふふふふふ
さうさうさうさうさう

あゝ待

ふふふふふふふふ

あゝあゝあゝあゝ

び

二羽をさくふふふふふふふふ
どろろふふふふふふふふふふふふ

心草にさうふ

おとほふふふふふふふふ
伝まといけふふふ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

二羽

西ひ車

し

れ字

ひふふふふふふふ

一

あゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

道

三羽と二羽の肉と作てゐるものと

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

まきまきしれ付る居水面とて居る **柴** 三葉の戸は柴の庵也地所

居るある三つある居る二つある **松** 所は三葉の柴の下はふれ小

松の **あし** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

物 **あし** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **神祇** 尺敷とく

乃と松とは三つある人地よりすまわ **白** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **推** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **櫓** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **白** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **櫓** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **白** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **櫓** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **白** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **櫓** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **白** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **櫓** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **白** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

乃と松とは三つある人地よりすまわ **櫓** 乃と松とは三つある人地よりすまわ

せニ多^一ふ^二あ^三と^四ね^五 二帖 あ^六げ^七こ^八 三つあうくすくあふ
 一^九沈^{一〇}香^{一一} あふ 一^{一二}腹^{一三}汁^{一四} 一腹汁一雪 順^{一五}徳^{一六} 一順あう 紙^{一七}衣^{一八} 紙衣
 着^{一九} 一着 者^{二〇} 一者 お^{二一}基^{二二}に^{二三} 基七白き 死^{二四}乃^{二五}字^{二六} 死乃字四
 ちん^{二七}こ^{二八} 一病乃ちん 浄^{二九}衣^{三〇} 衣 沙^{三一}金^{三二} 一砂は面屋 志^{三三}や^{三四} 志や
 白^{三五}河^{三六} 一白河 実^{三七} 一実 采^{三八}に^{三九}芝^{四〇} 采に芝 十^{四一}徳^{四二} 一十徳 衣^{四三} 衣 采^{四四} 采
 滴^{四五} 一滴 ち^{四六} 一ち 主^{四七}君^{四八} 一主君 ち^{四九} 一ち ね^{五〇} 一ね 代^{五一} 一代 月^{五二} 一月
 師^{五三} 一師 近^{五四} 一近 燭^{五五} 一燭 臺^{五六} 一臺 霜^{五七} 一霜 相^{五八} 一相

肩^一 一肩 衣^二 一衣 乃^三 一乃 衣^四 一衣 乃^五 一乃 衣^六 一衣 乃^七 一乃 衣^八 一衣 乃^九 一乃 衣^{一〇} 一衣 乃^{一一} 一乃 衣^{一二} 一衣 乃^{一三} 一乃 衣^{一四} 一衣 乃^{一五} 一乃 衣^{一六} 一衣 乃^{一七} 一乃 衣^{一八} 一衣 乃^{一九} 一乃 衣^{二〇} 一衣 乃^{二一} 一乃 衣^{二二} 一衣 乃^{二三} 一乃 衣^{二四} 一衣 乃^{二五} 一乃 衣^{二六} 一衣 乃^{二七} 一乃 衣^{二八} 一衣 乃^{二九} 一乃 衣^{三〇} 一衣 乃^{三一} 一乃 衣^{三二} 一衣 乃^{三三} 一乃 衣^{三四} 一衣 乃^{三五} 一乃 衣^{三六} 一衣 乃^{三七} 一乃 衣^{三八} 一衣 乃^{三九} 一乃 衣^{四〇} 一衣 乃^{四一} 一乃 衣^{四二} 一衣 乃^{四三} 一乃 衣^{四四} 一衣 乃^{四五} 一乃 衣^{四六} 一衣 乃^{四七} 一乃 衣^{四八} 一衣 乃^{四九} 一乃 衣^{五〇} 一衣 乃^{五一} 一乃 衣^{五二} 一衣 乃^{五三} 一乃 衣^{五四} 一衣 乃^{五五} 一乃 衣^{五六} 一衣 乃^{五七} 一乃 衣^{五八} 一衣 乃^{五九} 一乃 衣^{六〇} 一衣 乃^{六一} 一乃 衣^{六二} 一衣 乃^{六三} 一乃 衣^{六四} 一衣 乃^{六五} 一乃 衣^{六六} 一衣 乃^{六七} 一乃 衣^{六八} 一衣 乃^{六九} 一乃 衣^{七〇} 一衣 乃^{七一} 一乃 衣^{七二} 一衣 乃^{七三} 一乃 衣^{七四} 一衣 乃^{七五} 一乃 衣^{七六} 一衣 乃^{七七} 一乃 衣^{七八} 一衣 乃^{七九} 一乃 衣^{八〇} 一衣 乃^{八一} 一乃 衣^{八二} 一衣 乃^{八三} 一乃 衣^{八四} 一衣 乃^{八五} 一乃 衣^{八六} 一衣 乃^{八七} 一乃 衣^{八八} 一衣 乃^{八九} 一乃 衣^{九〇} 一衣 乃^{九一} 一乃 衣^{九二} 一衣 乃^{九三} 一乃 衣^{九四} 一衣 乃^{九五} 一乃 衣^{九六} 一衣 乃^{九七} 一乃 衣^{九八} 一衣 乃^{九九} 一乃 衣^{一〇〇} 一衣

名

経めく草

松林ゆふそれ

右衛門尉

松林ゆふそれ

焼

火 煎

煎 煎

煎 煎

煎 煎

衣

紋 紋

紋 紋

紋 紋

紋 紋

因

松人傷

松人傷

松人傷

松人傷

松人傷

氷

氷

氷

氷

氷

氷

目

目

目

目

目

火

火

火

火

火

字

字

字

字

字

日

日

日

日

日

目

目

目

目

目

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

名

経めく草

松林ゆふそれ

右衛門尉

松林ゆふそれ

焼

火 煎

煎 煎

煎 煎

煎 煎

衣

紋 紋

紋 紋

紋 紋

紋 紋

因

松人傷

松人傷

松人傷

松人傷

松人傷

氷

氷

氷

氷

氷

氷

目

目

目

目

目

火

火

火

火

火

字

字

字

字

字

日

日

日

日

日

目

目

目

目

目

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

面
二四
一

金一兩懷あり

終日
アハ

由
 乃
 乃

夢の
夢

人
やま
おと娘

一ノノノノ

わづ

隙と面

かき

下

又字

行

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some faint smudges and discoloration, characteristic of old paper. The left edge of the page shows the binding, with dark stitching or thread visible. There is no text or other markings on the page.

も

物と

もあ

三上る下のる

お葉

二の木の

紅

葉橋

四の色の葉は白葉と云ふは色に似て

紫

葉は紫い七の色と云ふ二の葉と云ふは色に似て

赤

葉は赤い七の色と云ふ二の葉と云ふは色に似て

秋

紅

葉橋

二の木の

物

二の木の

物

物の字

物

二の木の

文字ありとく

けいへん

賜

二の木の

何と

三

何と

二の木の

あわとて

未子

非

二の木の

か

か

か

二の木の

屋

屋

屋

屋

二の木の

屋

屋

二の木の

一

一

一

二の木の

之

之

之

二の木の

11

世
頼^セ
三
水^{ミヅ}
虫^{ムシ}
能^{スベキ}
芥^{カイ}
二
蟬^{セン}
二
蛭^{ヒルコ}
而^ニ
分^{ハク}

四十工
 常會
 新くあらはしむるに何の常去と
 名とりせむそれより事をおく
 関
 一名所と云ふ
 輝と云ふは雲

一、五ん東に上高雲白殿ハ付て々々
うゝと愛来りいふ方ありあり
冥越
冥屋
冥の戸
所

二氣を甘く咽をせくわせよ水と白くあまじからで
了る面を撫ふ人と鏡より白く

せん
せむる
せむる
せむる
せむる
洗^{セン}
濯^{ダク}
一^{いち}
の^の

西すくハ
 三白り
 析
 檻
 二敷訓
 又見ある
 花
 代
 紐
 之
 方
 錢

二見多目
 一わあ二女のわくの臺定む膳内膳おと居
 三あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 四あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 五あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 六あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 七あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 八あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 九あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居
 十あふと其のわくの臺定む膳内膳おと居

隠^イ
て西城厠とも不する客あり
隠^イ
て東城厠とも不する客あり
隠^イ

あまふも
とく
一
仙
人
若
也
ま
人
と
云
因
二
言
是

櫻侍さくらざむらい 一輝ひと之尺は表へ 千ちね字じ 子この面おもてをきくぬ 宵よ戸ど 所ところ 二ふた番ばん

人傷之
 船
 人傷之
 旋
 人傷之

殺生ころす 一匹をころすとわとぬいある 五つ 五つ
ひまわりく死二白りあり ゆし

二百先着
二百後着
成敗
あつとやあるは付る人
あつとやあるは付る人

とと
ニ
聖代
ひぢり一聖徳をみ高き
聖徳ありと云ふとき
梅檀
一わらふ二
ハ

燦
 あり
 仙洞
 きて 露の洞み
 どり 丸洞の屋
 帝
 李侯
 人懐て きて
 の 著て けり

白戸ハクド 一棟戸の爐ロウ
 二つぐり
 付ツキ 一戸ぐり
 飛トビ 一戸ぐり
 見ミ 一戸ぐり
 るル 一戸ぐり
 もモ 一戸ぐり
 おオ 一戸ぐり
 一イチ 一戸ぐり

宣下一院宣布
政道天子受祿ハ云々
綽天子受祿ハ云々

哲言帋
願寺一

善
まじふ

せひる
いんてん

勢ゼ
採ゾ 大勢
制セ 一人
制サ 一
勢ゼ
勢ゼ
勢ゼ
勢ゼ

玄迴祿一燒亡
之入氏寄書

 之
鈴虫二秋也涼一夏納涼也

交わつぬわつとあるくハ面
と極端にされ暑ハ付そふ病
病
二多病一とくろれ病や所々
うの今一以上思ふ病と云ふ病

の名を四
 内之是ハ
 栖 ニカ
 二位又ニ
 五カ之
 所ニカ
 栖之
 位カ
 位カ
 位カ

所^レ又^ニある^ニ位^ニの
 字^ハ所^ハは^ニ三^ニの^ニ五^ニ
 どのど
 二^ハの^ハと^ハち^ハと^ハと
 三^ハの^ハの^ハの^ハの^ハ
 捨^ハ人^ハの^ハの^ハの^ハの^ハ
 捨^ハ人^ハの^ハの^ハの^ハの^ハ

とて、ハ、^{スツ}
瘠れ字を、力と持ふ
と世と持ふハ、めと爲之みと持家と
持之くと、凶賊の持ハ、めをきり、受
（眞）

人

深袖フカスlee摺スレ斗トももととるる人ヒト於オ方カタ草クサ二ニ遠トホ垣キ取ト

しシもモもモ則スレバ二ニ節セツ四シ半ハ奏ソウ嗽ソウ一一度タビもモせセどドくクかカ

二ニとトくクにニるルもモどドくク七シもモもモ少コやヤるルもモ小コうウいイまマきキしシつツとト媒バイ一一とトもモとト

をヲ貴キ子コ指サシ行ユクてテわワらラもモとト不フ執シツ二ニ白ハク玄ゲン救クウのノ字ジ鼻ビ

まマとトくクしシやヤらラ集スミ二ニ救クウ一一条ジョウ湯トウ一一也ヤどドくク成セイ道ドウ

なナすス崔スエ一一とトめメのノ因イン又マタ因イン分ブン之シ推スエ量リヤウ二ニとトくクしシるル二ニ押オシくク

白ハクとトくク推スエ量リヤウ二ニとトくクしシるル二ニ押オシくク二ニ白ハク玄ゲン謀ボウ小コハハ二ニ押オシ二ニ付ツキてテ苦クどドくクしシるル二ニ押オシくク於オ

鐵テツ一一かカらラとトもモとトるル通スウ都ト既キ經キヤウ歴レキ二ニ白ハク玄ゲン吸キツ二ニ白ハク玄ゲン

任ニ吉キツ市シ表ヒョウ微ミ一一かカとトもモとトるルとトくクしシるル二ニ押オシくク

とトくクしシるル二ニ押オシくク金キン珠シュ一一尺シツ者モノ也ヤのノ八ハチ

三サン雲ウン一一曲キョク煙エン一一葉エフ原ゲン也ヤとトくクしシるル二ニ押オシくク

二ニ白ハク玄ゲン一一凡バンとトもモとトるル二ニ押オシくク砂サ二ニ白ハク玄ゲン一一木キとトもモとトるル二ニ押オシくク

泥デのノ字ジ四シとトもモとトるルけケ也ヤとトもモとトるル二ニ押オシくク

○ 倭名遣大枕

一中乃えと書事 中とゆゑをいふれえとえ

越 こえ

消 きえ

消 きえ

消 きえ

消 きえ

消 きえ

是 ちえ

燃 もえ

肥 こえ

金 かね

金 かね

金 かね

一かを改とせり 其字れを改とせり

と不 とふ

庵 いん

か か

教 か

う う

海 かい

一増乃と書事

小字なづきもあらず

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

とぶ とぶ

一物乃終はるるも端のを成す

玉のを 琴のを 袂のを 帯のを

一と終はるるも端のを成す

をのを 玉のを 帯のを 袂のを

一物乃終はるるも端のを成す

と終はるるも端のを成す 玉のを 袂のを 帯のを

おられ皆とくも奥にわたりておるなり

一と終はるるも端のを成す 玉のを 袂のを 帯のを

一と終はるるも端のを成す 玉のを 袂のを 帯のを

一と終はるるも端のを成す 玉のを 袂のを 帯のを

一奥乃に書半 大の字も奥にわたりておるなり

おられとくも奥にわたりておるなり 玉のを 袂のを 帯のを

おられとくも奥にわたりておるなり 玉のを 袂のを 帯のを

一尾の字も奥にわたりておるなり

おられとくも奥にわたりておるなり 玉のを 袂のを 帯のを

一門乃字も奥にわたりておるなり

おられとくも奥にわたりておるなり 玉のを 袂のを 帯のを

一端の字も奥にわたりておるなり

うまふへ糸　うまふへ茶　あふるへ文　うまふへ
 うまふへ酒　うまふへ糖　わふふへ子　そのふへ調
 さふふへ果　うぬへ植　とぬへ煮　くろふへ加
 紫かわちて方々へいふへやがふまは故に糖のふふ
 けねえふむきても中れえや奥穴ふやかくいふまき
 ふふふふながるひもあらき人息　そふかひて　徳兼　おとい
 瑞のふありとさふへ

一奥の字と下の書事

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

一奥の字と下の書事

此の奥の字と下の書事

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

一奥の字と下の書事

此の奥の字と下の書事

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

一奥の字と下の書事

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

いゝ 色 すゑ 赤 めく 賛 いゝ 家

心為家

しよんたて

ひる玉敷

吳山風

五

54

えんむすむ

一、文字ハ多ク是

蘭をらふ

辨波とあは

丹波タニハとん

芝菫と云ふは草のふん

一 さんだうんきょんとてん

一物にあつたうへとさへ

右に示されし通り也。假名おかり字ありけり。又も
けし。此の中乃の奥のいやをどおかりなり。とある。
半もゆゑありとしく考へし。唯假名遣はる一隅
已所余の確とあるなり。

たのめ其かまひか

二二四不同之事

毎句二と四を不同はもゆる
此二字め仄字なりて四字め平字にても
是ハ平字あても仄字あても兩韻ありとも
なりかづなり

めいり成ともなり

此二字めと四字めと同一様

を嫌ふなり

三四字一平之事

是三四不同なれども四字仄字にて
平字ハ一字なりてありきなり
下乃句 ○ ○ ○ ○
是又四字平字にて一字仄字あり
わきまあり

但し参選乃句又ハ古語なりとよく用ひ得せ

ありなりて百韻あり下所の免もなり

二下三連事

是二四不同なれども仄字二字下
はきめを下と連とて嫌ふなり
下乃句 ○ ○ ○ ○
是も下平字二字にけり故あり

又平仄起之事

上乃句 ○ 平起 ● ● ● 是平起なり此對句ハ仄

ツイ ● 仄起 ● ● ● 物字 ○ 起ふはふへふはふ上乃句

上乃句 ○ 仄起 ● ● ● 付句ハ同く仄起なり也

ツイ ● 平起 ● ● ● 又此對句ハ平起なり

角上乃句と下乃句ハ同く起を遠く下れ
句と上乃句並ぶハ同く起めり也

⑥ 漢和一種法式之事

面八句乃内漢四句和四句也面内對一所
みへーみへー乃對也

漢和乃時ハ面ハ八句め和なり和漢乃時ハ八句め
漢和乃聲句もかゝるべし

面八句乃内朱乃句可禁 朱乃句 但し
奥委載之

第唱句ハ各別なり也

百句乃内漢五句和五句之乃かゝる漢也
も和も二三句れまのハカゝる

花雪年乃内漢二句和の方二句

月和漢も二三句五句はもあてもカゝる
雪五ハ漢めても和も五がくもカゝる

二句わたり地の両方へ一句はくさるゝ是れ其方より
て出るゝ如漢出がらよ一句のさへ

五句玄と句玄の物にさるゝ韻字にぬまんとつた
けりさへ一た物にけりさるゝす又え龜痕の
韻の第と

通籠番月夜

番乃字え龜痕ふての聲は訓へるゝか
あゝと續なりいゝむとよむ時の歌の韻め
音ハ也え龜痕の韻めあゝの故にひて不吉

韻外字ハ三の意よりけりてもさるゝが次
漢句わたり共一五句まで續くゝ但漢乃句對
至てハ五句はもてさるゝが次わたり句ハ五句と
混りともはへ

夢觀乃漢わたり付句も漢めさるゝ七言れ文句
あゝと七言れ對ゝとさるゝ其以下ハ五言ありても
さるゝが次けりさ合はるゝ常れ俳諧同きや
疊字ハ一症ハ八句までさるゝがさるゝ
同一面を嫌ふ也上中下と盡所なもかさるゝ

樂扶也

漢中六

畧^{リツ}堂^ニ一^ニ光^ニ草^ニ籠^ニ

苟^{カウ}魚^ニ出^ニ朱^ニと光^ニけい^ニ食物^ニ籠^ニの意^ニ然^ニ也^ニ
か様^ニ有^ニ家^ニへけい^ニ縁^ニま^ニる^ニに^ニま^ニり^ニま^ニる^ニを^ニ
同^ニよ^ニめて^ニ作^ニお^ニ所^ニへ^ニ五^ニ字^ニ乃^ニ内^ニ二^ニ字^ニや^ニく^ニは^ニり^ニ
ま^ニま^ニと^ニ一^ニ句^ニは^ニま^ニま^ニと^ニま^ニま^ニと^ニ本^ニと^ニ次^ニ一^ニは^ニま^ニ
ま^ニま^ニ一^ニ句^ニは^ニま^ニま^ニの^ニ合^ニ掌^ニ射^ニと^ニ子^ニ難^ニの^ニ方^ニ今^ニ源^ニ

ハ^ハ倭^ニ名^ニ書^ニ之^ニ事^ニ

中華^{チウワ}ハ^ハ張^ニ九^ニ成^ニ日本^ニ乃^ニいろ^ニは^ニを^ニ書^ニ史^ニ會^ニ要^ニを^ニ就^ニ
より^ニ故^ニは^ニ住^ニ古^ニより^ニ用^ニひ^ニま^ニれ^ニり^ニ射^ニ句^ニは^ニま^ニま^ニ

た^ニく^ニ月^ニと^ニつき^ニ山^ニを^ニや^ニま^ニ色^ニと^ニつ^ニろ^ニと^ニかく^ニ照^ニり^ニ
ま^ニり^ニか^ニの^ニど^ニろ^ニ一^ニ句^ニや^ニ佛^ニ法^ニの^ニ用^ニひ^ニま^ニれ^ニり^ニや^ニ一^ニ無^ニ
ま^ニて^ニり^ニろ^ニ一^ニ句^ニ倭^ニ名^ニが^ニき^ニの^ニ文^ニ字^ニへ^ニは^ニる^ニに^ニ記^ニと^ニ

辻^ニ堂^ニ白^ニ壁^ニ彬^ニ

こ^ニま^ニと^ニ茂^ニ助^ニ

テ^ニし^ニて^ニ宗^ニ因^ニ

辻^ニ堂^ニ乃^ニ白^ニ壁^ニ彬^ニは^ニ禿^ニあ^ニる^ニに^ニ巡^ニ礼^ニお^ニの^ニ後^ニ手^ニ志^ニ
ろ^ニろ^ニの^ニ作^ニら^ニる^ニは^ニ斤^ニ倭^ニ名^ニを^ニて^ニ射^ニと^ニし^ニて^ニ

佛^ニ指^ニの^ニ一^ニ體^ニなり^ニ

九連綿字之事

連綿字ハ冠ウ篇ウ作ウ下ル月ミミソリ辟ミ

乾坤ミミハ

宇宙

磨廩

武嘉

囧囧

勝勝

氣形ミミハ

麒麟

鳳凰

蛤蜊

鴛鴦

猿猴

文牀ミミハ

肺脾

鬢髻

骨體

肝膽

眼膜

態執ミミハ

粗語

婀娜

蹂躪

慇懃

徘徊

生植ミミハ

梧桐

芙蓉

枇杷

菖蒲

蒲萄

食眼ミミハ

杞菊

兩檔

袈裟

醴醕

饕餮

急財ミミハ

琴瑟

牝船

幣帛

柄觔

蘧篲

右連綿字ハ連綿字ミミハ

大槩ミミハ

類

十二物之事

是ハ別々ニ物と二つよせて連續ツグツグするなり譬ハ

乾坤あてハ

星霜

雨露

山林

陰陽

春秋

氣形あてハ

鸞鵠

大鷄

龍虎

狐狸

燕鶯

文辭あてハ

容顏

頭頂

眉目

心肝

手足

態藝あてハ

生還あて

生植あてハ

邪正

縦横

得失

松菊

蘭蕙

榛栗

桃李

梅竹

食服あてハ

酒茶

麴糵

酒肉

錦繡

香麝

器仗あてハ

金銀

甲冑

弓矢

力杖

筆硯

この外何程もあらず一爰ハ大畧と載る

十三物之事

貪瞋癡

儒教道

過現來

身中意

天地人

智仁勇

名れぬあり

⑤底返りあり

底よりこころのよみ下と表せてい返るべし下

ふへくふへきとく

瞋目古

瞋目

満池

内京

無心

省經

やれ類えかしのとくれ句より月く底返り

字して對とく一對句訓して付るやへ忍

又唱句返りてふふるに應返せて對とけと

可い字の類のまゝとく一いつくま二とくあり

⑤朱川之事

朱川とけく人乃る名所の名書物乃る年号友位

とけくや人乃るあり人れ名國の名おのまのま

くま對とく一平仄とわつておの字對とけ

りまゝすむ字對とくいれお可なり人れ名書

山谷とわつて東坡とれ二字たよ乾坤門の字あり

馬主とわつて赤人これい馬と赤ハ名書門の字主

と人れ名書門の字ありこれい上おれ對なり

こむむくも虚押やとかなる也音は月を月へ生
植ふなり茂多蕪乃字れ類も同ふ同音は
用まゐるなりひのりて乾坤やとたり閑寂
幽乃字もとたり詩乃字詩を作するなりと
字なり詩文詩書乃なり用いてゐるなりと
文書章乃字も同音なり桐乃字きりともみても
生植なりみともみてもゐるなり格の字も
同ふ琴乃なりと類乃字たなりと

乾坤と氣形と通用乃字

日月星虹霓雷

乾坤と忌賊通用乃字

軒扉門戸榜瓦甍桴碑牀石

灰炭楯棚

乾坤と文辭と通用の字

趾牙氣夢角

乾坤と文彩通用の字

日月星電露煙煤

乾坤と態藝と通用の字

夢中封居處虛室渡泥堆載
代遠近上下內外前後表裏

乾坤と生植と通用

林苑森節

氣形と態藝と通用

雄漁樵牧

氣形と文辭と通用

羽翼鱗翰角毛

氣形と光彩と通用

日月星鳥鳥志兔白兔鸞鸞鳥日上瑩

氣形と照財と通用

貝蟻鵠

氣形と人倫と通用

雄漁鰥獨孤

人倫と態藝と通用

賢愚樵漁盜賊僇將衆老若

自佗雄勇侶

文辭と態藝と通用

聾 虧情 智 瘡 病 盲 瘖

生植と紫財と通用

架 奈 茗 香 瓢 藥 榮 薪

生植と光彩と通用

紅 翠 綠 紫

紫財と態藝と通用

權 綠 朽 飾 詩 文 章 歌 同

紫財と光彩とかかり字

丹 朱 金 銀 墨 玉 碧 粉 錦 黛 盡

白 薄 泥

光彩と態藝兼分字

清 淡 濃 濁 渌 然 薄 泥

数量と態藝と通用

重 皆 分 長 短 多 少 細 同 諸 教

幾 雙

太如乃文字物類一是対句のけまりる多し時可用

⑤ 假名書乃文字物類

月と都囀又和計 雲と朽岡 凡と加前 雨と下糸

柳花曆 年中に隠居して三月四時よりす 春已抄 春の末
春丁受 春の早くさる 餞春 春の去るを惜む 鶯餞 日上人

○夏

清和 四月の雨 迎梅雨 四月の雨 新緑 五月の雨
緑迎夏 五月の雨 梅天 五月の雨 花富貴 牡丹をいふ
十三紅 花の紅 緑勝花 花の紅 山如滴 山の水
蕉書出 蕉の書 荷聲蓋 荷の聲
霖 五月の雨 梅頰潤 梅の花 紫絲緯 紫の緯

暑炎熱 夏の暑 驅暑 暑を驅く 早霖 早の雨
炎塵 炎の塵 涼書 涼の書 暑埃塵 暑の埃 暑如醉 暑の如
火大埃張 火の大 秋進朗 秋の進 秋風 秋の風

○秋

初涼 初の涼 新涼 新の涼 金氣 金の氣 梧翻葉 梧の葉
推殘暑 暑を推す 西風 西の風 梧雨 梧の雨

金雨

秋乃有

葉語

秋風のうらやまを

桐涼

梧桐乃すく

素景

秋乃系とく

疎柳

秋風よりまれて

楓錦

もろく

紅樹

同上

疎柳

抑然乃かきと云

山客瘦

草木乃葉落

雁雲

雁の雲

寒砧

うそとひきとれ

冷

秋あり

○冬

枯草

凍蝶

凍鶴

焼葉

雪

雪

雪

呵筆

態をよそとやうく

凍雲

雪天乃

弓卧

雪

雪

肩暄

雪をよそとやうく

敵凍

雪

雪

雪

雪

短景

雪の形

獸炭

雪

釣雪

雪

雪

探毒

雪

探毒

雪

雪

雪

雪

春信

雪

春信

雪

雪

雪

雪

守歳

大晦日の夜をよそと

守歳

雪

雪

雪

雪

○雜

雲龍衣

雪

雲龍衣

雪

雪

雪

雪

詩肺淨

雪

詩肺淨

雪

雪

雪

雪

雲似蓋

雪

雲似蓋

雪

雪

雪

雪

紅旭

紅衣 紅女

紅乃字の末篇

山開登

山はあけよう

山是日

釣深

書をくくく

黒甜夢

虫室実

舞如雪

人のうきうき

湖似鏡

水海の面影

歌款乃

舟舟 灯底

客

一葉

舟舟

帝票泊

錦字

御溝葉

松諸

松諸

班姬怨

思ひ繋りて

名刺

浮跡出所

名刺

禪定

錫

右之類不可得中他准

大尾

改板をうおた之改

誰或之祖玄永長頭翁之嫡門良徳之末

良保孫々正統分傳一常矩より

和及竹亭五師以傳今一

亀林と名流存ら統一もはるるふ

中十と勢ちうきあ一これぞうき

又因る氣くけ書彦虎勢一

か否改刻一新井氏の毒はおか

いきて世より一きも名は止むる

の道如く終るに如く記す所の新
智如くも述るるも如く

京都五橋 石巻前庵

嘉慶書

享保七年歲上月吉辰

改正新板彫刻之所也

皇都書林

新井孫兵衛



跋

溝口竹亭とて友人筆まことにあるをきめと
清書とてとてまねとてり名よめててり
かゝるるを先達乃授てあひれ數量手お
於紫乃志あくいさう口傳れりまき今志
能風れりよあさう入ぬかたきさうしうも
けりきに私とて人きさるもあひれり

他方へつちまはせし虫と人をもたうし
 一帖ありけりまゝとあはれめん事よ
 りまけありとうあはれけりたえとまゝに

露路吹房

和及



元祿十年丁丑孟春穀旦

洛下書林

新井彌兵衛版



聖賢



